

Ⅲ これからの10年においてめざすもの

Ⅱの「県図書館の役割」を果たすため、これからの10年において次のような取組を進めます。県図書館で働くすべての者がこれらを指針として共有していきます。

1 すべての県民への図書館サービスの提供

(1) どこでも、いつでも、誰でも使える図書館

ア どこでも、いつでも使える図書館

県図書館は名古屋市中区に立地しており、利用者は名古屋市とその近郊の方々が多くを占めています¹。一方、時間的、身体的な制約などにより、県図書館を利用したくても利用できない人が少なくありません²。

このため、遠方の人が県図書館に来館しなくても受けられるサービスや、身近な市町村立図書館及び公民館図書室（以下「市町村立図書館等」という。）を通じて県図書館を利用できるサービスをより充実させます。

県図書館では、市町村立図書館等に県図書館の資料を貸し出す**協力貸出**を行っており、身近な図書館にない資料でも、県図書館から取り寄せて利用することができます。また、県図書館が持っていないくても、他の図書館の資料を取り寄せることができる**相互貸借**で市町村等の図書館同士の助け合いを仲立ちしています。

県図書館は、こうした協力貸出や相互貸借をスムーズに行えるよう、市町村立図書館等との間に資料搬送の定期便を設けています。現在は、県図書館の資料が県内の図書館に到着するまでに約1週間かかっていますが、この期間短縮に努めます。

また、今まで館内での閲覧のみに限定していた資料を見直し、貸出する資料の範囲を広げるほか、協力貸出以外に利用者が直接に県図書館の資料を申し込み、市町村立図書館等で受取や返却ができる³よう取り組みます。

遠隔地に住む人や、高齢者、子育て中の人など来館が難しい人にも利用しやすくなるよう、来館しなくても電話やインターネットなどにより行うことができる手続きやサービスを拡充します。



県図書館での定期便の発送作業
(地下1階BM室)

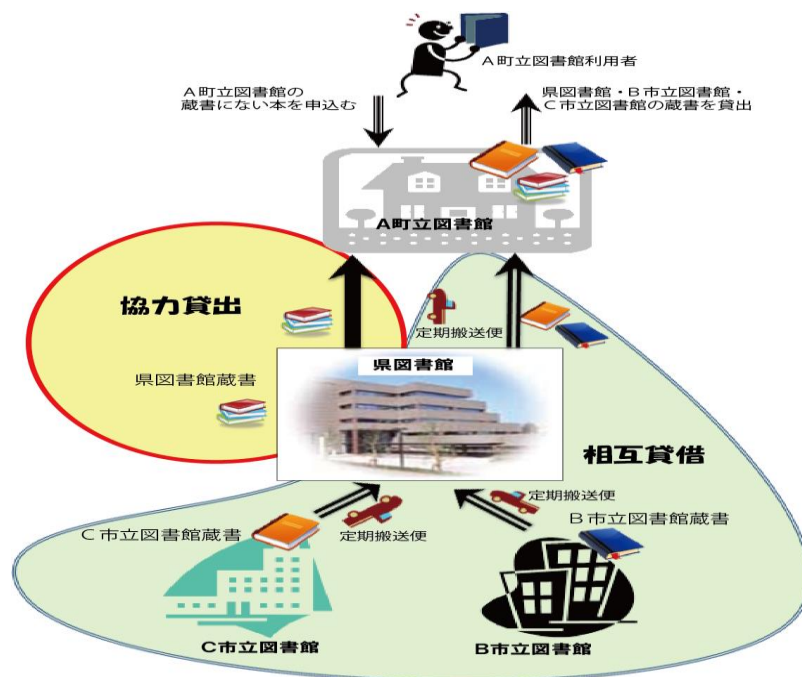
今後は、従来の紙資料に加えて、デジタル資料の提供が愛知県内全域へのサービスを行ううえでより重要な役割を担うと予測されます。県図書館ではすでに貴重資料のデジタル化を進めていますが、今後普及が見込まれる電子書籍をはじめとしたデジタル資料の積極的な導入に努め、来館せずに直接県図書館の資料を利用することができる環境を整えます。

県図書館の利用をさらに拡大するためには、サービス環境を整えるだけでなく、サービス内容を知っていただくことも重要です。そのために、ホームページの充実に加え、様々な手段や新しい手法を活用し、他の機関の協力を得ながら、県図書館の情報をより速く、広くお届けします。

一口メモ

☆協力貸出と相互貸借

「協力貸出」とは、市町村立図書館等からの依頼に基づいて県図書館が資料を市町村図書館等に貸し出すことです。一方、「相互貸借」は、県図書館を介して市町村立図書館等同士で資料の貸借を行うことを言います。



- ¹ 平成25年度末の登録者46,543名のうち、名古屋市内在住者は31,256名と約67%を占める。
- ² 県政世論調査では、県図書館を利用しない理由として、「地元の図書館など、他の図書館を利用しているから」46.9%がトップにあげられているが、続いて、「県図書館は遠くて利用しにくいから」43.4%となっている。(平成25年度第1回世論調査 平成25年7月実施)
- ³ 現在は、東三河・西三河の一部・知多地域の一部の市町村立図書館等の窓口で、個人が直接愛知県図書館で貸出した資料を返却できる「遠隔地返却制度」を実施している。平成26年4月現在実施自治体数は18市町村。

イ 誰でも使える図書館

図書館はさまざまな人が利用する施設です。障害のある人、高齢者、外国人など誰もが使いやすい図書館となるよう努めます。

県図書館では、従来から視覚に障害のある人を対象にした視覚障害者資料室を設置し、養成講座を修了した朗読協力員とともに、質の高いサービスの提供に努めてきました。今後は、そのほかの多様な障害を持つ人もサポートしていきます。



視覚障害者への対面朗読
(1階視覚障害者資料室)

近年、図書館の利用者のなかでシニア層の占める割合が大きくなっており、「誰でも使える」という視点からみると、外出や読書が困難になりがちな高齢者へのサービスの強化は重要な課題です。できるだけ身近な図書館でのサービスが望まれますが、県図書館でも、他の機関と連携しながら、高齢者に読書の愉しみを届けられるようにしていきます。

愛知県は全国でも有数の外国人県民が多い県です。県図書館では、多文化サー



多文化サービスコーナー（3階）

ビスコーナーを設置していますが、今後もこのコーナーを核として、多文化サービスのさらなる充実を図っていきます。

このほか、県内どこでも十分に誰もがサービスを受けられるよう、市町村立図書館等と連携した活動や助言・研修を行うことにより、県内全域の図書館サービスを向上させます。

(2) 地域の文化・産業を支える図書館

ア 地域資料の収集・保存・提供

県図書館の**地域資料**とは、愛知県に関係の深い地域の歴史・文化を記したもの、例えば市町村史誌、地域団体の記念誌、文学関係の同人誌、さらに民俗資料といった資料などのほか、統計資料や行政資料、地形図や地盤図などの目的に応じた地図、地場産業に関する資料なども、地域の現在の姿や将来へ向けての課題などを知ることができる重要な資料と考え、幅広い収集を行っています。これらは一般に流通しないものも多く、県立図書館として、地域の歴史や文化を将来に伝え

る記憶庫としての役割と、地域社会の課題の解決を側面から支援する情報拠点としての役割を果たすため、地域資料の収集・保存に力を注ぎます。また、地域資料が行政機関の政策立案や地域の団体の活動に役立つことを積極的にアピールし、今以上に調査・研究に活用されるよう努めます。

地域資料は、とりわけ資料のデジタル化が求められる分野です。公開中の「貴重和本デジタルライブラリー」⁴の拡充に努めるとともに、著作権等により実施できないものを除き、所蔵する



貴重和本「三河堤」の原本

地域資料のデジタル化を進めます。また、市町村立図書館が資料をデジタル化する場合の協力・支援に努めてまいります。このほか、ホームページ内に、県図書館が所蔵する地図、電話帳、新聞のリストなどの地域資料の情報や、インターネット上で閲覧できる愛知県や県内市町村の議会会議録や統計書などの資料・情報へのリンクなどをまとめた「愛知県関係資料ポータル」を新設し、効率的に情報が入手できるようにします。

一口メモ

☆地域資料

愛知県図書館の「地域資料」とは、愛知県や愛知県に深い地域に関する資料を指します。従来は「郷土資料」と言い、郷土の過去のことがらについて記された資料が中心でしたが、愛知県の現在や、将来の問題などに関する資料も含め、「地域資料」と呼んでいます。行政資料、地図、市町村史誌、愛知県にゆかりのある人物の伝記や著作、雑誌など幅広い資料の収集保存に努めています。



地域資料コーナー（3階）

イ 愛知の産業の発展に貢献する資料の提供

愛知県は、長年にわたって製造品出荷額等が全国一位を誇るとともに、農業の盛んな県でもあり、日本の産業発展をリードする立場にあります。一方で、サービス業やIT関連分野の比率が高まるなどの産業構造の変化や、企業の海外流出に伴う空洞化など、様々な課題にも直面しています。

県図書館は、前身である愛知県文化会館図書部の時代から産業や科学技術・情

⁴ 県図書館が所蔵する江戸時代及び明治初期の貴重和本を電子画像で提供するもの。県図書館ホームページから閲覧できる。平成26年4月現在85タイトル301冊を公開中。

報技術の分野の資料を積極的に収集しており、質・量ともに充実したものとなっています。このことは、住民生活に密着した資料の収集・提供に重点を置くことが多い市町村立図書館と異なる大きな強みです。産業や環境、科学技術・情報技術の分野の資料のさらなる充実を図るとともに、豊富な資料を最大限に活用して、専門性の高いレファレンス⁵にも対応するよう努めます。

(3) 仕事や生活に役立つ図書館

文化や教養、娯楽だけでなく、仕事、家庭、学校などの日常生活において役立つ実用的な情報の提供も図書館の重要な役割です。

県図書館では、就業、起業、資格取得、健康、医療、法律など、県民の仕事や生活に役立つ情報を提供するため、関係する資料の充実を図ります。ニーズは高くても有料であるために個人では利用しにくいと考えられる情報のオンラインデータベースもさらに導入していきます。

また、これらの目的に必要な資料や情報を利用者が効率的に入手できるようにする努力を続けていきます。例えば、分類ごとに館内の各所に散らばっていた資格取得に関する本を一か所に集めるような使いやすい資料配置の工夫や、ニーズを捉えたテーマ展示・講演会などのイベントの開催に取り組みます。利用者の様々な調べ物に的確に応えられるよう、これまでも重点を置いてきたレファレンスサービスをさらに充実させるとともに、数多く問い合わせのあるテーマについては、利用者自身で資料や情報を探すための手助けとなるガイドの作成と公表に努めます。



企業情報、ビジネススキル、就職・起業・資格関連本などを一か所に集めたビジネス情報コーナー（4階）

(4) 若い人に読書の愉しみを伝え知の力を育てる図書館

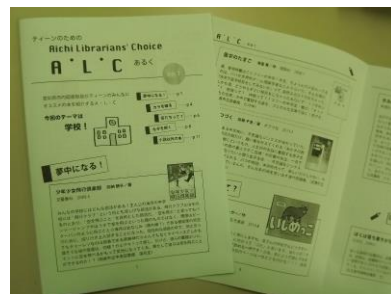
現在、大半の公立図書館において、小学生以下の子どもを対象にしたサービスが行われており、学校の調べ学習の支援や学校に出向いて読み聞かせをする活動も近年増えています。それに比べて中学・高校生を対象にしたサービスは少なく、多くの図書館で行われているわけではありません。

県図書館は児童図書室のほか、先取的にティーンズコーナーを開設し、資料の提供だけでなく参加型イベント⁶やホームページでの資料の紹介を行っています。

また、こうしたサービスを若い人たちに身近な市町村立図書館に拡大するため、県内市町村立図書館の職員を対象とした連絡会を立ち上げ、おすすめ本の紹介リーフレット⁷の共同作成をはじめ情報交換や研修を行っています。

県図書館は、今後も若い人たちが読書の楽しみを得ることができる資料の収集や、知的な活動を刺激し育てるイベントの開催、インターネットでの情報発信を行います。

また、県の子ども読書活動の推進への取組⁸として、県内の高等学校や特別支援学校のニーズに応じた支援や連携をはじめ、市町村立図書館等や学校図書館と協力した読書活動の支援、家庭における読書の機会をつくる手助けなどを行います。さらに、学校に行っていない中退・不登校者などの若年層へも、読書や学習の場、情報の提供を通じて支援します。



県内図書館員が共同で作成した
おすすめ本の紹介リーフレット

(5) 生涯学習を支える図書館

ア 情報活用力向上への支援

図書館にとって、資料や情報の提供にとどまらず、資料や情報をよりよく活用するための支援も重要です。

そのため、情報機器や情報ネットワークを利用するのが苦手な人々への情報収集・活用技術の講座や、課題の解決・研究のための情報収集方法などを解説する講座や講演会を開催することにより、県民の情報を活用する力が高まるよう支援します。



新聞データベースの使い方講座
(2階新聞雑誌部門)

⁵ 図書館利用者が学習・研究・調査等のために必要な資料および情報を求めた場合に、図書館員が図書館の資料と機能を活用して資料の検索を援助し、資料を提供し、あるいは回答するなど、利用者と資料を結びつける業務。(図書館用語辞典編集委員会『最新 図書館用語大辞典』柏書房 2004年)

⁶ 利用者参加型のイベントとして、ティーンズにすすめたい本の紹介をはがき大のPOPに書いてもらい、館内やホームページで紹介。

⁷ 愛知県公立図書館長協議会ヤングアダルトサービス連絡会編集『ALC (Aichi Librarians' Choice) あるく』を平成26年1月に発行、県内の図書館で配布するほか、県内の図書館ホームページなどからもみることができる。

⁸ 愛知県では、『愛知県子ども読書活動推進計画』第一次を平成16年に、第二次を平成21年に、第三次を平成26年3月に策定した。

イ ボランティア活動の機会の提供

県図書館では、研修により知識や技術を得たボランティア⁹が、図書館サービスの充実に貢献しています。また、企画展示の関連催事として文化活動の成果を発表する機会の提供も行っています。

今後は、図書館イベントの提案や運営の支援といった新たな連携も含め、図書館とボランティアが互いを理解しあいながら協働することで、サービスをより充実したものにします。



図書館サポーターによるお話し会
(1階児童図書室)

ウ コミュニケーションの場の提供

県図書館では、資料や情報を媒介として、人と人との出会いの場、コミュニケーションの場を提供します。たとえば、読書会やビブリオバトル¹⁰などのような本を通じた新たなコミュニケーションの場面や、企画展示の関連事業として文化活動の成果発表の機会を提供することなどを行います。

また、図書館資料を活用してグループで話し合いながら学習する空間の確保についても検討します。



知的書評合戦ビブリオバトルの開催
(1階AVホール)



企画展示関連事業として開催した
アマチュアによる講談の実演(同左)

⁹ 児童室でのおはなし会、資料補修を行う図書館サポーター。

¹⁰ おすすめの一冊を持ち寄り、本の魅力を紹介しあう書評ゲーム。(谷口忠大『ビブリオバトル 本を知り人を知る書評ゲーム』文藝春秋 2013年)